

【学校教育目標】 「自分とみんなのために」心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成
【目指す児童像】 「気づく子 学ぶ子 元気な子」

玖城のほとり



大村市立大村小学校
学校だより
第10号
令和7年9月4日発行
文責：校長 堺 邦寿

★ 平和集会 9月1日（月） ★

今年の8月9日、長崎は原爆落下80年目を迎えました。本校においても、「戦争の悲惨さと非人間性を知り、生命の尊さを理解するとともに、再び戦争を起こさない心を育てる」ことを目的として、次の平和学習を行いました。

- ① 平和に関する視聴覚教材の視聴及び作文（長崎県視聴覚ライブラリーから借用）
 - 1・2年生 おこりじそう
 - 3・4年生 はとよひろしまの空を
 - 5・6年生 ヒロシマに一番電車が走った
- ② 平和に関する講話
 - 6年生 7/1 六田 正英 先生（長崎被災協大村支部）
 - 4・5年生 7/10 被ばく体験を語り継ぐ 永遠の会 様
- ③ 平和集会 8月9日 → 9月1日
 - 8月9日の登校日は、悪天候が想定されたため、子どもたちの安全を第一に考え、中止としましたので、9月1日に改めて平和集会を行いました。



- ※ 進行 集会委員会代表2名
- 1 はじめのことば 6年生代表2名
 - 2 平和学習を通して学んだことの発表
 - 2年代表 1名
 - 4年代表 3名
 - 6年代表 1名
 - 3 平和に関する絵本の読み聞かせ（図書委員会）
 - 4 千羽鶴を託す（企画委員から4年生代表へ）
 - 5 平和の誓い（企画委員会・全児童）
 - 6 校長先生の話
 - 7 黙祷
 - 8 おわりのことば 6年代表2名

ここで、学年の代表として発表した5名のみなさんの作文を紹介します。裏面もご覧ください。

おこりじそうを見て
一年生代表

ぼくは、おこりじそうを見て、自分だったらないてしまうなと思いました。もうせんそうやばくさんがなくなると、平和になってほしいなと思います。

なぜかと言うと、ばくさんがおちてなくなった人やせんそうに行っていない人、食べるものがなくなって困っている人がいなくなるといいからです。

もう一つの理由は、この世から、せんそうやばくさんがなくなったら、どんなにいいだろうと思うからです。

平和のために自分ができることは、「せんそうはやめよう」とよびかけることです。なぜかと言うと、こういうよびかけをしていると、本当になくなるかもしれないからです。

ほかにできることは、せいかいから人をききつける人をいなくなるように心がけることです。

どうしてかと言うと、人をききつける人がいなくなったら、せいかいにくにぐにがなかよくなって平和な世かいになると思うからです。

もうせんそうはやったらだめなんだとあらためて思いました。

平和学習で学んだこと

四年一組代表

広島や長崎の原子ばくだんに、私は一発のばくだんで、何十万人の人が広島と長崎で死んでしまっていることが分かりました。動物もその原ばくのせいで何びきも死んでいました。なにもつみがない人たちが、原ばくで次々に死んでしまったり、水をくれ、水をくれとなったりしていました。自分がけいけんしたことがないことを昔の広島、長崎の人たちは、こんなことをけいけんして家ごとや友達をなくしていることがわかって、戦争はぜったいにはいけないとわかりました。

平和学習で学んだこと

四年二組代表

ぼくは、げんばくのおそろしさをしました。生きていても、ほうしゅせんであつたくなりました。げんしばくだんとは、ぜったいにつかっではいけないと思いました。みんなそのおそろしさを、じつじにけいけんしていかないのだから、まげな。げんばくとは、長崎、広島をくるしめたかくへいきだとしりました。

今もウクライナと、ロシアが戦争しているけど、日本はぜったい戦争しないことをずっとねがいます。

平和学習で学んだこと

四年二組代表

わたしは、戦争はともこわいと思いました。一発の原子ばくだんで、何人どころじゃないぐらいの人が死んでしまうからです。それで、人だけじゃなく、動物も死んでしまうからです。なので、自分の命も人の命も大切だと思いました。

戦争は、わたしが生まれる前よりも、もっと前にありました。それでたった一発の原子ばくだんでたくさんの方の命がうばわれ、とてもきげんで大事なたった一つの命がうばわれてしまえばくだんだと知りました。

なので、わたしはもう二度とこんなことはおきたらいけないと思いました。今、この平和にすごしている大切な時間やこのまいにちを大切にしていきたいです。



平和学習を通して学んだこと

六年生代表

私達は、被爆者の六田さんから、七月一日に被爆体験の話について聞きました。

ここでは、八月九日の原爆が落ちた日のことや原爆が落ちたあとにどんなことがあったのかについて教えていただきました。

六田さんの話によると、原爆が落ちた日、その日は早く学校から帰る日で、家に帰って少しした後原爆が落ちたそうです。落ちた直後、六田さんは、その場につくまうて爆発の被害から逃れようとしたが、爆発の力はすさまじく、頭とつでにけがをしました。うでは今もけがした後が残っているそうです。そして、原爆の被害は、六田さんだけでなく、六田さんが住んでいた街や六田さんの友達にまで及び、中には、亡くなった友達もいたそうです。

原爆が落ちたあとは、原爆が落ちた場所からはなれるために歩いてひなんをしたそうです。ひなん先は遠くはなれており、歩くだけでも大変なことに加え、原爆の被害のせいで何日も、食べられない、飲み物がのめない日が続いたそうです。さらに、歩いている時、死んでいる人の中には、骨がとけていたり、ひふがとけていたりしている人がいたそうです。

六田さんの話を聞いて私は、考えたことが二つあります。

一つ目は、戦争の恐ろしさについてです。理由は、私は今回の話を聞いて、戦争は、戦争に関係ない多くの命をうばうことが改めて分かりました。それだけでなく、戦争で命が助かったとしても、六田さんのように今でもけがのあとが残ったり、心のきずか治ってなかったりする人がいると知って、私は、戦争は何も良いえいきょうを与えない。むしろ悪いえいきょうを与えることなんだ、と思いました。

二つ目は、平和を守るために私達ができることについてです。私達は、毎年平和学習を通して、戦争の恐ろしさや平和を守る大切さを学んでいます。今回私は、六田さんからの話を聞いて、これからは、学ばなければならぬ日常生活の中で私にできる平和を守るための行動をしていきたいと思いました。そのため、だれかとけんかをして、先延ばしせず、すぐ仲直りするとか、口づから男女問わず、だれとでも仲良くするとかをがんばります。そのおかげで、自分や周りの人の日常の平和を守るようになっていこうと思います。